

Unit 4 受動態

英語の受動態表現は「BE動詞 + (動詞の) 過去分詞形」で表現されます。そして、「誰に」の部分は「by + 行為者」と前置詞のby を使います。

The computer	was broken	by John
ある行為を受けた対象	壊された状態	行為を及ぼした人

「過去分詞」は「すでになされた状態」を表します。broken はbreakの過去分詞形で、「壊された (状態)」を表します。過去分詞だけでは文を作ることができません。そこで「BE + 過去分詞」がセットとして was broken となるのです。ここで、BE 動詞の役割は時制 (現在か過去) を表すと同時に、「(何かがある状態に) 在る」ということを表します。was broken は「壊された状態にあった」という意味合いで、The computer was broken. は「そのコンピュータは壊れていた」ということです。The door was closed. で「ドアが閉まっていた」となるのと同じこと。The computer was broken にby John が加わり、The computer was broken by John. と表現すれば、「そのコンピュータはジョンに壊された」という動作がなされた、という意味合いが強くなります。

受動態表現を使う際の理由にはふたつあります。

対象を話題にして表現したい
行為者を前面に出したくない

実際、「行為者を前面に出したくない」ということから、by + 行為者そのものも表現しない受動態表現が一般的 (頻度的には圧倒的に多い) で、行為者に関心があれば、自然と能動態の表現が選ばれます。English is spoken all over the world. (英語は世界中で話されている) では、英語が話題になっており、しかも「誰によって」は示されません。

This house was built in 1920.

(この家は1920年に建てられたものです)

The Statue of Liberty in New York was opened in 1886.

(ニューヨークの自由の女神は1886年に公開されたものだ)

一方、行為者情報がなければ、すんなり事態を構成することができない場合、その情報を含むというのが原則です。

Abraham Lincoln and John F. Kennedy are still loved by many Americans.

(アブラハム・リンカーンとジョン・F・ケネディは今でも多くのアメリカ人に愛されている)

Clint Eastwood was nominated by the Academy again.

(クリント・イーストウッドはまたアカデミー賞にノミネートされた)

ここでは「by + 名詞」の部分を省いてしまうと、どういうことなのか、すんなり事態を構成することができません。